

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文	2	普通 コース	2	国語科

使用教科書等	出版社
標準現代文B 改訂版	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に使われている優れた表現を自分のものとする。 ・基礎学力を向上を向上するためにも漢字学習を中心に読み書きができるようにする。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の流れを理解し、現代文の鑑賞力を高める。 ・基本的な漢字の読み書きができるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出 ・授業態度(他者との協働)
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四	わたしはあなただったかもしれない
	五	中間考査
	六	新しい地球観 毛利衛
	七	期末考査
第2学期	八	永訣の朝 宮沢賢治
	十	情けは人の… 俵万智
	十	中間考査
	十二	ナイン 井上ひさし
第3学期	十二	期末考査
	一	名所絵はがきの東西 高階秀爾
	二	こころ 夏目漱石
	三	期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
古典A	2	普通 コース	2	国語科

使用教科書等	出版社
高等学校改訂版 標準 古典A 物語選	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の基礎知識を習得する。 ・習得した基礎知識を使って古典を読解する。 ・古典を読み味わい、日本文化の源流に触れ、感じたことを表現する能力を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の基礎知識が習得できている。 ・習得した知識を使って古典を読解することができる。 ・読解した古典の感想を的確に表現できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組みと姿勢 ・提出物の状況
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・古本説話集「平中が事」 ・中間考査 ・漢文「助長」「嬰逆鱗」 ・『竹取物語』『帝の求婚』 ・期末考査
	5	
	6	
	7	
第2学期	8	<ul style="list-style-type: none"> ・『十八史略』『水魚之交』 ・中間考査 ・『徒然草』『公世の二位のせうとに』『吉田と申す馬乗り』 ・『十八史略』『赤壁之戦』 ・期末考査
	9	
	10	
	11	
第3学期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・『方丈記』『ゆく川の流れ』 ・『枕草子』『中納言参り給ひて』 ・期末考査
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文B	2	進学コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
精選現代文B	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な読み書きができること。 ・多くの文章に触れることで、言語文化に対する関心を高め、豊かな社会生活を送る態度を身に付ける。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業を通して学んだことや文学史の定着度を、考査を実施して評価する。	板書、課題プリントをきちんとノートにまとめ、提出していること。 発問事項に対応できること。 ノート等の提出物や授業・グループワークに対する積極的な態度等で評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	ミロのヴィーナス 【中間考査】
	五・六	山月記 相手依存の自己規定 【期末考査】
第2学期	七・九	詩歌 消費されるスポーツ 【中間考査】
	十・十二	蠅 日本人の美意識 【期末考査】
第3学期	十二・二・三	「である」と「する」こと こころ 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
古典B	2	進文・進理 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
新編 古典B 改訂版	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2. 古典の読解力を身につけるとともに、日本の伝統・文化への知識を深める。 3. 古典作品を通して、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> 基本重要古語、古典文法の習得 内容理解 適切な解答文の作成 文学史の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 提出物 ノートの取り方 小テスト(読み・単語) 授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	〈古文〉『今昔物語集』(説話) 【中間考査】
	五・六	〈漢文〉「故事成語」 〈古文〉『竹取物語』(物語) 【期末考査】
第2学期	七・八・九	〈古文〉『方丈記』(随筆) 〈漢文〉「漢詩」 【中間考査】
	十・十一	〈古文〉『伊勢物語』(物語) 〈漢文〉『史記』 【期末考査】
第3学期	十二・一	〈古文〉『土佐日記』『更級日記』(日記) 〈漢文〉「小説」
	二・三	【期末考査】 演習問題

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文B	2	特文理 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
精選 現代文B	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにする。 2. 評論を読解し、論理の展開や要旨を的確にとらえる力を身につける。 3. 小説を読解し、登場人物の生き方や心情の推移を的確に把握し、感性を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	・漢字・語句の習得 ・内容理解 ・適切な解答文の作成	・提出物(宿題、自習課題) ・ノートを取り方 ・小テスト ・授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	〈評論〉 世界をつくり替えるために 【中間考査】 〈評論〉 ミロのヴィーナス 〈小説〉 山月記
	五・六	【期末考査】
第2学期	七・九	〈評論〉 相手依存の自己規定 〈詩歌〉 永訣の朝 【中間考査】
	十・十一	〈小説〉 ころも 【期末考査】
第3学期	十二・一	〈評論〉 「である」と「すること」
	二・三	〈評論〉 「日本人の美意識」 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
古典B	2	特文・理 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
精選 古典B 改訂版	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 古典における基本事項(語句・文法)の習得。 2. 古典の読解力を身につけると共に、日本の伝統・文化への知識を修得し、理解を深める。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> 基本重要古語、古典文法の習得 内容理解 適切な解答文の作成 文学史の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 提出物 ノートの取り方 単語テスト 授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	<古文>『枕草子』(随筆) <漢文>「故事成語」 【中間考査】
	五・六	<漢文>「故事成語」 <古文>『徒然草』『方丈記』(随筆) 【期末考査】
第2学期	七・八・九	<古文>『伊勢物語』(物語) <漢文>「漢詩」 【中間考査】
	十・十一	<古文>『大鏡』(物語)『更級日記』(日記) <漢文>『史記』 【期末考査】
第3学期	十二・一・二・三	<古文>『源氏物語』(物語) <漢文>「小説」 【期末考査】 演習問題

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史B	2	普通 コース	4	地歴科

使用教科書等	出版社
高校世界史	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会の成り立ちを系統的に学ぶために、主に18c後半以降の西洋史、東アジア史を扱う。市民革命とその対極にあるアジアの植民地化を理解し、二つの世界大戦を経て現代社会が形成されたことを理解する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、定期考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度、ノートや課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容	
第1学期	4	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン	
	5	中間試験	
	5	第12章 アジア諸地域の動揺 3 東アジアの激動 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 3 アジア諸国の改革と民族運動	
	6	期末試験	
	第2学期	7	第14章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦とロシア革命
		8	2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国
9		3 アジア・アフリカ諸国の民族運動	
10		第14章 二つの世界大戦 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第二次世界大戦	
11		期末試験	
第3学期	1	第15章 冷戦と第三世界の独立 1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	
	1		
	2	第16章 現在の世界 1 社会主義世界の変容とグローバル化 期末試験	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史B	2	進文 コース	4	地歴公民

使用教科書等	出版社
詳説 世界史B	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	世界史の大きな流れと地域ごとの関連を学習し、それが現代社会にどのような影響を与え、またどのように発展してきたかを考察・理解させる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期ごとに定期テストを実施し、得点で評価する。	普段の授業態度および提出物で評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四 五	序章 先史の世界 第1章オリエントと地中海世界 【中間考査】
	五 七	第2章 アジア・アメリカの古代文明 【期末考査】
第2学期	七 十	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 第4章 イスラーム世界の形成と発展 【中間考査】
	十 十一	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 【期末考査】
第3学期	十二 二	第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 【期末考査】
	三	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史A	2	進文・進理 コース	2	地歴科

使用教科書等	出版社
改訂版 要説 世界史	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会の成り立ちを理解するために、近代史を中心に世界各地の相互関連を学ぶ。 各民族の特質を理解するための文化圏の形成についても学んでいく。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度(表現力)、小テストや作業の様子、また課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第5章 ①帝国主義の成立と列強の情勢 ②世界分割とアジア・アフリカ ③二つの世界大戦とその影響
	5	
	6	
第2学期	7	第6章 三つの世界の形成 ①冷戦期の世界と日本 ②アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題
	8	
	9	③米ソ両大国の動揺
	10	
	11	
第3学期	12	②社会主義の後退と冷戦の終結
	1	
	2	③グローバル化と多極化

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史B	2	進学文系 コース	4	地理歴史

使用教科書等	出版社
改訂版 詳説 日本史 日本史B	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	我が国の歴史の展開を総合的に考察させ、日本の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる資質を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に定期考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度、ノート・課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 【中間考査】
	5 7	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成 【期末考査】
第2学期	8 10	第3章 貴族政治と国風文化 第4章 中世社会の成立 【中間考査】
	1 2	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成立 【期末考査】
第3学期	1	第5章 武家社会の成立 【中間考査】
	2 3	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史 A	2	進学 コース	2	地歴

使用教科書等	出版社
日本史 A 現代からの歴史	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代史を理解し、今日の日本の基盤を考察する。 ・裏話やエピソードを交えて興味や関心を持たせる。 ・時代背景を考えさせる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物や出席状況、学習状況 ・ノートの取り方、創意工夫
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容	
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章 近代日本の形成 1. 国際情勢の変化と明治維新 	
	5		中間考査
	5		2. 明治新政府の諸改革
第2学期	6	期末考査	
	7	<ul style="list-style-type: none"> 3. 立憲国家の成立 第2章 東アジア世界の変動と日本 1. 日清戦争と近代社会の確立 	
	7		中間考査
10	2. 日露戦争と帝国日本の形成		
第3学期	10	期末考査	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・第3章 二つの世界大戦と日本 1. 第一次世界大戦と帝国日本 2. 政党政治の時代 	
	12		2. 政党政治の時代
1	期末考査		

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史B	2	特文 コース	4	地歴科

使用教科書等	出版社
改訂版 詳説 世界史	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	世界の歴史の大きな流れと地域ごとの関連を理解し、文化の多様性と現代世界の形成過程を広い視野から考察することによって、歴史意識と歴史的思考力を培い、主体的に国際社会に関わっていく態度を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度、復習テストや課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	序章 先史の世界 第I部 第1章 オリエンと地中海世界
	5	中間考査 第1章 オリエンと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明
	6	期末考査
第2学期	7	第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成
	8	中間考査
	9	
	10	第II部 第4章 イスラーム世界の形成と発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 期末考査
第3学期	1	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 第III部 第7章 アジア地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成
	2	
	1	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史A	2	特文・特理 コース	2	地理歴史

使用教科書等	出版社
要説 世界史	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	世界史の大きな枠組みと展開を理解させることを主眼とする。各地の歴史的な背景が、その後の文化の多様性・複合性に及ぼした影響をとらえた上で、現代社会にどのようにつながっているかという歴史的思考力を身につけさせる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	基本的な歴史的事項を中心にそれぞれの単元の主題がとらえることができているかどうかを確認する。中間・期末考査を行う。	普段の授業態度・提出物等で評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四 五	第1章 諸地域世界の形成と交流 東アジア世界・内陸アジア世界 【中間考査】
	五 七	西アジア世界・ヨーロッパ世界 【期末考査】
第2学期	七 十	第2章 結びつく世界 アジアの諸帝国 【中間考査】
	十 十一	近世ヨーロッパの形成と発展 【期末考査】
第3学期	十二 二	第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 【期末考査】
	三	まとめ

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史B	2	特進文系 コース	4	地理歴史

使用教科書等	出版社
改訂版 詳説 日本史 日本史B	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	我が国の歴史の展開を総合的に考察させ、日本の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる資質を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に定期考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度、ノート・課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 【中間考査】
	5 7	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成 【期末考査】
第2学期	8 10	第3章 貴族政治と国風文化 第4章 中世社会の成立 【中間考査】
	10 12	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成立 【期末考査】
第3学期	1	第5章 武家社会の成立 【中間考査】
	2 3	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史 A	2	特進 コース	2	地歴

使用教科書等	出版社
日本史 A 現代からの歴史	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 近代史を理解し、今日の日本の基盤を考察する。 裏話やエピソードを交えて興味や関心を持たせる。 時代背景を考えさせる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 提出物や出席状況、学習状況 ノートの取り方、創意工夫
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> 第1章 近代日本の形成 1. 国際情勢の変化と明治維新
	5	
	5	
第2学期	6	<ul style="list-style-type: none"> 2. 明治新政府の諸改革
	7	
	8	
第3学期	9	<ul style="list-style-type: none"> 3. 立憲国家の成立 第2章 東アジア世界の変動と日本 1. 日清戦争と近代社会の確立
	10	
	11	
第3学期	12	<ul style="list-style-type: none"> 2. 日露戦争と帝国日本の形成
	1	
	2	
第3学期	3	<ul style="list-style-type: none"> 第3章 二つの世界大戦と日本 1. 第一次世界大戦と帝国日本 2. 政党政治の時代
	4	
	5	
第3学期	6	<ul style="list-style-type: none"> 2. 政党政治の時代
	7	
	8	
第3学期	9	<ul style="list-style-type: none"> 期末考査
	10	
	11	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
政治経済	2	普通 コース	2	地歴・公民科

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂版 政治・経済	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	民主主義の本質に関する理解を深めさせるとともに、現代における政治、経済、国際関係などについての客観的な理解をめざす。また、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を持つ良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事項や、その本質、特質及び動向を捉える基本的な概念を身につけているかどうかを年間5回の定期テストで判断する。	普段の授業に取り組む姿勢や提出物(ノート・課題プリント等)の内容、出欠席の状況などを総合的に判断し評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 ⑨中小企業の地位と役割 ⑩農業の現状と課題 ⑪消費者問題 ⑫高度情報社会の進展と課題 ⑬労働問題 【中間考査】 ⑭社会保障制度の充実 ⑮環境保全と資源・エネルギー問題 第2章 国民経済と国際経済 ①国際経済のしくみ 【期末考査】
	5	
	5	
第2学期	7	②国際協調と国際経済機関の役割 ③地域経済統合 ④グローバル化する経済 ⑤南北問題と日本の役割 【中間考査】 第1編 現代の政治 第2章 民主政治の基本原則と日本国憲法 ①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と世界の政治体制 【期末考査】
	9	
	10	
第3学期	11	④日本国憲法の基本原則 ⑤平和主義と自衛隊 ⑥基本的人権の保障と新しい人権 【期末考査】
	12	
	1	
	1	3

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代社会	2	進文理 コース	2	地歴・公民科

使用教科書等	出版社
『現代社会』	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会に対する関心を高め、諸問題について様々な立場を踏まえて主体的に学習できる能力を養うとともに、知識の定着を図る。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	政治・経済・国際社会に関する基本的な概念や理論について理解し、その知識が定着しているかどうかを定期考査の得点により評価する。	出席状況、授業態度、提出物などで判断する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第2部 現代の社会と人間 第4章 現代の経済と国民福祉 1、経済のしくみ ①経済社会の変容 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ 【中間考査】
	5・6	④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと働き ⑥中央銀行の役割と金融の自由化 【期末考査】
第2学期	7・9	⑦政府の役割と財政 2、変化する日本経済 ①戦後復興と高度経済成長 ②産業構造の転換と国際経済環境の変化 【中間考査】
	10・11	③バブル後の日本経済 ④注将棋行と農業 3、豊かな生活の実現 ①自立した消費者への道 【期末考査】
第3学期	12・1	②労働者の権利 ③現代の雇用・労働問題 ④社会保障の役割 ⑤環境保全と循環型社会
	1・3	【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
政治・経済	2	特進 コース	2	地歴・公民

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂版 政治・経済	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	民主主義の本質に関する理解を深めさせるとともに、現代における政治、経済、国際関係などについての客観的な理解をめざす。また、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を持つ良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事項や、その本質、特質及び動向を捉える基本的な概念を身につけているかどうかを年間5回の定期テストで判断する。	普段の授業に取り組む姿勢や提出物(ノート・課題プリント等)の内容、出欠席の状況などを総合的に判断し評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 ①経済社会の発展 ②経済社会と経済活動 ③市場経済の機能と限界
	5	【中間考査】 ④経済成長と景気変動 ⑤物価の動き ⑥金融のしくみとはたらき
	6	【期末考査】
第2学期	7	⑦財政のしくみとはたらき ⑧日本経済の歩み ⑨中小企業の地位と役割
	8	【中間考査】
	9	⑩農業の現状と課題 ⑪消費者問題 ⑫高度情報化社会の進展と課題他
第3学期	10	【期末考査】
	11	⑬労働問題 ⑭社会保障制度の充実 ⑮環境保全と資源・エネルギー問題
	12	第2章 国民経済と国際経済 ①国際経済のしくみ ②国際協調と国際経済機関の役割 ③地域的経済統合他
	1	【期末考査】
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	普通コース	2	数学科

使用教科書等	出版社
改訂 新数学Ⅱ／ニューファースト 改訂 新数学Ⅱ	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・ 問題集にて演習を行い、基礎力を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期に中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の学習態度、プリント・課題等の提出物により総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	1章 方程式・式と証明 1節 整式・分数式の計算 1. 3次の乗法公式と因数分解 2. 二項定理 3. 分数式とその計算
	5 7	【中間考査】 2節 2次方程式 1. 複素数 2. 2次方程式 3. 解と係数の関係 【期末考査】
第2学期	7 10	3節 高次方程式 1. 整式の除法 2. 因数定理 3. 高次方程式 4節 式と証明 1. 等式の証明 2. 不等式の証明 【中間考査】
	10 11	2章 図形と方程式 1節 座標と直線の方程式 1. 直線上の点の座標 2. 平面上の点の座標 3. 直線の方程式 【期末考査】
第3学期	1 2 3	4. 2直線の関係 2節 円の方程式 1. 円の方程式 2. 円と直線 3節 不等式の表す領域 1. 不等式の表す領域 2. 連立不等式の表す領域 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学A	2	普通 コース	2	数学

使用教科書等	出版社
改訂 新数学A/ニューファースト 改訂 新数学A	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	場合の数と確率、図形の性質に整数の性質について理解し、基本的な知識と技能を習得する。事象を数学的に考察し、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期に中間考査・期末考査を実施し、その得点により評価を行う。	日常の学習態度、プリント・課題等の提出物により総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 和の法則と積の法則 【中間考査】 4. 順列 5. 順列の利用 6. 重複順列 7. 円順列 8. 組合せ 9. 組合せの利用 【期末考査】
	5	
	5	
	5	
	6	
第2学期	7	2節 確率 1. 確率の意味 2. 確率の計算 3. 独立な試行の確率 4. 反復試行の確率 5. 条件付き確率 【中間考査】 2章 図形の性質 1節 三角形の性質 1. 三角形と角 2. 三角形と比 3. 三角形の重心・外心・内心 4. 角の二等分線と線分の比 2節 円の性質 1. 円周角の定理 2. 円に内接する四角形 3. 円と直線 4. 接線と弦のつくる角 5. 方べきの定理 6. 2つの円 3節 作図 1. 基本の作図 2. いろいろな作図 4節 空間図形 1. 直線や平面の位置関係 2. 多面体 【期末考査】
	7	
	10	
	10	
	11	
第3学期	1	3章 整数の性質 1節 約数と倍数 1. 約数と倍数 2. 最大公約数と最小公倍数 3. ユークリッドの互除法 2節 整数の性質の応用 1. 方程式の整数解 2. 分数と小数 3. 2進法 課題学習 【期末考査】
	2	
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	進文 コース	4	数学科

使用教科書等	出版社
改訂版 新編数学Ⅱ 改訂版 3TRIAL 数学Ⅱ+B	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各単元の基本的事項の内容の理解を深めると同時に、数学Ⅰ・Aとの関連性を確認しながら、校外模試に対応できる総合力を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的内容の理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	授業態度、ノート・プリント等、提出状況・学習内容の理解度をチェックして評価する。授業中の演習問題に対する取り組み方も評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 式と証明 第1節 式と計算 【中間考査】
	5 6	第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と方程式の解 第2節 高次方程式 【期末考査】
第2学期	7 9	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域 【中間考査】
	10 11	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 【期末考査】
第3学期	1 2 3	第2節 対数関数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学B	2	進学 コース	3	数学

使用教科書等	出版社
新編数学B(改訂版)／3TRIAL数学B／完成ノート	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な概念、公式を理解させる。 ・ 問題集を繰り返し行い、基本的な計算力を身につけ、応用力を高める。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和
	5 6	【中間考査】 4. 等比数列 5. 等比数列の和 第2節 いろいろな数列 6. 和の記号Σ 【期末考査】
第2学期	7 10	7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 第3節 数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法 【中間考査】
	10 11	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 【期末考査】
第3学期	1 2	第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示
	2 3	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	進学理系 コース	5	数学科

使用教科書等	出版社
改訂版 新編 数学Ⅱ / 3TRIAL 数学Ⅱ + B	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な概念、公式を十分に理解する。 問題集で計算力や応用力を高め、模試や入試に対応できる学力を養う。 主体性を持って他者と関わり、集団を高める態度を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	▽ 式と証明 (3次式の展開・因数分解 整式の割り算 分数式の計算 等式・不等式の証明 相加平均と相乗平均)
	5 6	【中間考査】 ▽ 複素数と方程式 (虚数 2次方程式の解の種類 解と係数の関係 2数を解とする2次方程式 剰余の定理 因数定理 3次方程式の解の種類)
		▽ 図形と方程式(1) (座標平面上の点 直線の方程式 点と直線の距離) 【期末考査】
第2学期	7 8 10	▽ 図形と方程式(2) (円の方程式 円と直線の位置関係 領域 軌跡) ▽ 三角関数 (角の拡張と弧度法 三角関数を含む方程式・不等式 加法定理) 【中間考査】
	10 11	▽ 指数関数と対数関数 (指数の拡張 累乗根 指数を含む方程式・不等式 対数と底・真数 対数を含む方程式・不等式 常用対数) 【期末考査】
第3学期	1 2 3	▽ 微分法と積分法 (極限值 導関数の定義 関数の微分 接線の方程式 極大・極小 3次関数のグラフ 方程式への応用 微分と積分の関係 不定積分 定積分 関数方程式 定積分と図形の面積 面積公式) 【期末考査】
	2 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学B	2	進学 コース	3	数学

使用教科書等	出版社
改訂版新編数学B/改訂版3TRIAL数学II+B/完成ノート	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な概念、公式を理解させる。 ・ 問題集を繰り返し行い、基本的な計算力を身につけ、応用力を高める。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 【中間考査】 第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 【期末考査】
	5	
	5	
	5	
	5	
	6	
第2学期	7	第3節 数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 【中間考査】 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示 第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 【期末考査】
	7	
	8	
	8	
	9	
	9	
第3学期	1	5. ベクトルの図形への応用 1年間の学習の振り返り 1年間の学習の振り返り 【期末考査】
	2	
	2	
	2	
	3	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	特文 コース	4	数学

使用教科書等	出版社
数学Ⅱ改訂版／アドバンスプラス改訂版数学Ⅱ+B／Focus Gold数学Ⅱ+B	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念、公式を十分に理解させる。 ・問題集で計算力、応用力を高める。 ・模試や入試に対応できる学力を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 式と証明・高次方程式 1年次で学習済 第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 【中間考査】
	5 6	第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域 第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数 第2節 三角関数の加法定理 【期末考査】
第2学期	7 8	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 第2節 対数と対数関数 【中間考査】
	10 11	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 【期末考査】
第3学期	1 2 3	第3節 積分 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学B	2	特文 コース	2	数学

使用教科書等	出版社
数学B-改訂版-アドバンスプラス改訂版数学ⅡB/FocusGold数学ⅡB	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な概念、公式を十分に理解する。 ・ 問題集で計算力、応用力を高める。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や小テストの出来具合、課題提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列 【中間考査】
	5 6	第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 【期末考査】
第2学期	7 10	第2章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形 【中間考査】
	10 11	第3章 空間座標とベクトル 第1節 空間のベクトル 【期末考査】
第3学期	1 2	授業の復習・演習 【期末考査】
	2 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	特理 コース	5	数学

使用教科書等	出版社
数学Ⅱ改訂版／アドバンスプラス改訂版数学Ⅱ+B／Focus Gold数学Ⅱ+B	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念、公式を十分に理解する。 ・問題集で計算力や応用力を高め、模試や入試に対応できる学力を養う。 ・主体性を持って他者と協働して学習する態度を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や小テストの出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 式と証明・高次方程式・・・1年次で学習済 第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域 【中間考査】
	5 6	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数 第2節 三角関数の加法定理 【期末考査】
第2学期	7 8 9 10	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 第2節 対数と対数関数 【中間考査】
	11 12	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 第3節 積分 【期末考査】
第3学期	1 2 3	数学Ⅲの内容 第1章 複素数平面 第1節 複素数平面 第2節 平面図形と複素数 第2章 平面上の曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学B	2	特理 コース	3	数学

使用教科書等	出版社
数学B-改訂版-アドバンスプラス改訂版数学ⅡB/FocusGold数学ⅡB	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な概念、公式を十分に理解する。 ・ 問題集で計算力、応用力を高める。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や小テストの出来具合、課題提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列 【中間考査】
	5 6	第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 【期末考査】
第2学期	7 10	第2章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形 【中間考査】
	10 11	第3章 空間座標とベクトル 第1節 空間のベクトル 【期末考査】
第3学期	1 2	授業の復習・演習 【期末考査】
	2 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	普通 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高校化学基礎 新訂版	実教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(3学期は期末考査のみ実施)	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	序 化学と人間生活 1章 物質の構成 第1節 物質の探求
	5	1 物質の種類と性質 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動 【中間考査】 第2節 化学結合 1 原子の構造 2 イオンの生成 3 周期表
第2学期	5	2章 物質と化学結合
	7	第1節 イオン結合 1 イオン結合 2 イオン結晶 【期末考査】 2節 共有結合と分子間力 1 共有結合と分子間力 2 共有結合からなる物質 3節 金属結合 1 金属結合 2 金属 4節 化学結合と物質 1 物質の分類 2 金属結合からなる物質とその利用 3 イオン結合からなる物質とその利用 4 共有結合からなる物質とその利用 【中間考査】 3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式 1 原子量と分子量・式量 2 物質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式 5 基本法則に関連した化学史 第2節 酸と塩基 1 酸と塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定 【期末考査】
第3学期	1	第3節 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 酸化還元反応の起こりやすさ 4 身のまわりの酸化還元反応 【期末考査】
	5	
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
理科演習	2	普通 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂新物理基礎 高等学校 生物基礎	第一学習社 第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。 生物や生命現象にみられる色々な特性を取り上げ、これらを柱として生命を探求する態度を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(3学期は期末考査のみ実施)	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	物理基礎 第Ⅲ章 第1節 波の性質 ①波と振動 ②波の表し方 ③波の重ねあわせ ④定常波 ⑤波の反射
	5	【中間考査】
		第Ⅲ章 第2節 音波 ①音の速さと3要素 ②波としての音の性質 ③弦の固有振動 ④気柱の固有振動
	5	【期末考査】
	7	
第2学期	8	第3章 生物の体内環境 3. 体内環境の維持のしくみ 【中間考査】
	10	
	10	第4章 バイオームの多様性と分布 1. 生物の多様性とバイオーム 2. バイオームの形成過程 3. バイオームとその分布 【期末考査】
	11	
	12	
第3学期	1	第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 生態系のバランスと保全 3. 生態系の保全 【期末考査】
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	進学文系 コース	3	理科

使用教科書等	出版社
化学基礎 新訂版	実教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物質の性質や反応、あるいは構造を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する原理・法則を化学的に考察する能力と態度を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。[3学期は期末考査のみ実施]	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	序章 化学と人間生活 — 生活の中の化学 1章 1節 物質の探究 【中間考査】 2節 物質の構成粒子
	5 7	2章 1節 イオン結合 2節 共有結合と分子間力 3節 金属結合 【期末考査】
第2学期	7 10	4節 化学結合と物質 3章 1節 物質と化学反応式 【中間考査】 2節 酸と塩基 【期末考査】
	1 3	3節 酸化還元反応 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物	2	進文 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 生物基礎/改訂 高等学校 生物	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	自然界の事象を、生物に関わる内容を理解することにより、理科的考察力を身につけ、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各期の考査によって、それぞれの学習範囲の理解度・知識力・考察力を評価を行う。	日頃の授業への出席状況や取り組む姿勢、ノートや課題等の提出物によって総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第3章 生物の体内環境 3 体内環境の維持のしくみ
	5	第4章 バイオームの多様性と分布 1 生物の多様性とバイオーム 2 バイオームの形成過程 3 バイオームとその分布 【中間考査】
	5	第5章 生態系とその保全 1 生態系 2 生態系のバランスと保全 3 生態系の保全
	5	【期末考査】
	6	
	第2学期	7
5		第2章 代謝 1 代謝とエネルギー 2 炭酸同化 3 窒素同化 4 異化 【中間考査】
9		
10		第3章 遺伝情報の発現 1 遺伝情報とその発現 2 遺伝子の発現調節 3 バイオテクノロジー
5		第4章 生殖と発生 1 有性生殖における遺伝的多様性 2 動物の配偶子形成 3 動物の発生 4 動物の発生における形態形成のしくみ 5 植物の発生 【期末考査】
12		
第3学期	1	第5章 生物の環境応答 1 植物の環境応答 2 動物の環境応答 3 動物の行動 【期末考査】
	5	
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	進学理系 コース	4	理科

使用教科書等	出版社
化学基礎 新訂版	実教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物質の性質や反応、あるいは構造を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する原理・法則を化学的に考察する能力と態度を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。[3学期は期末考査のみ実施]	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	序章 化学と人間生活
	5	1章 物質の構成 1節 物質の探求 1 物質の種類と性質 2 物質と元素 3 物質の3態と熱運動
	5	2節 物質の構成粒子 1 原子の構造 2 イオンの生成 3 周期表 【中間考査】
	5	2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 1 イオン結合 2 イオン結晶
	7	2節 1 共有結合と分子間力 2 共有結合からなる物質 3節 1 金属結合 2 金属 4節 化学結合と物質 1 物質の分類 2 金属結合からなる物質とその利用 3 イオン結合からなる物質とその利用 4 共有結合からなる物質のその利用 【期末考査】
第2学期	7	3章 物質の変化
	10	1節 物質量と化学反応式 1 原子量と分子量・式量 2 物質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式 5 基本法則に関連した化学史 【中間考査】
	12	2節 酸と塩基 1 酸と塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定 【期末考査】
第3学期	1	3節 酸化還元反応
	3	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 酸化還元反応の起こりやすさ 4 身のまわりの 酸化還元反応 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物	2	進学	3	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 生物	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	身近なところから自主的に問題を発見し、生物学的な探求の過程を通して科学的な思考力、判断力、および表現力を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の学習態度、出席状況や、課題や提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞・・・①生命の基本単位—細胞 ②生物を構成する物質 ③細胞内で生命活動を担う細胞小器官 【中間考査】
	5 6 7	2. 細胞膜を介した物質の移動・・・①細胞膜の性質と物質の透過性 ②細胞膜を介した物質の通過 3. 生命現象とタンパク質・・・①タンパク質の構造と性質 ②酵素とその働き 【期末考査】
第2学期	8 9 10	第2章 代謝 1. 代謝とエネルギー代謝 2. 同化・・・①光合成と葉緑体 ②光合成の過程 ③細菌類による炭酸同化 3. 窒素同化 4. 異化・・・①異化によるエネルギーの獲得 ②発酵 ③呼吸 【中間考査】
	10 11 12	第3章 遺伝現象の発現 1. 遺伝情報とその発現・・・①DNAの構造 ②DNAの複製 ③遺伝情報の発現 2. 遺伝子の形質発現・・・①真核生物における形質発現 ②原核生物における発現調節 【期末考査】
第3学期	1	3. バイオテクノロジー・・・①遺伝子を扱う技術 ②バイオテクノロジーの応用 ③課題 第4章 有性生殖 1. 減数分裂と受精・・・①無性生殖と有性生殖 ②染色体と遺伝子 ③減数分裂と生殖細胞形成 2. 遺伝子と染色体・・・①遺伝子の連鎖と組み換え 【期末考査】
	2	第5章 動物の発生 1. 配偶子形成と受精・・・①配偶子形成 ②受精 2. 初期発生の過程・・・①卵割 ②原腸の形成と胚葉の分化

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理	2	特進コース	3	理科

使用教科書等	出版社
高等学校理科用 物理	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	自然の事象について関心や探求心を持ち科学的態度を身につけ、基本的概念や原理・法則を理解すると共に、科学的に判断する力を育む。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 5	第I編 第1章 平面内の運動 1. 平面運動の速度・加速度、 2. 落体の運動 第2章 剛体 1. 剛体にはたらく力のつりあい、 2. 剛体にはたらく力の合力と重心 【中間考査】
	5 5 6	第3章 運動量の保存 1. 運動量と力積、 2. 運動量保存則、 3. 反発係数 第4章 円運動と万有引力 1. 等速円運動、 2. 慣性力、 3. 単振動、 4. 万有引力 【期末考査】
第2学期	7 5 1 0	第II編 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則、 2. 気体分子の運動、 3. 気体の状態変化 第III編 第1章 波の伝わり方 1. 正弦波、 2. 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 1. 音の伝わり方、 2. 音のドップラー効果 第3章 光 1. 光の性質、 2. レンズ、 3. 光の干渉と回折 【中間考査】
	1 0 5 1 2	第IV編 第1章 電場 1. 静電気力、 2. 電場、 3. 電位、 4. 物質、 5. コンデンサー 第2章 電流 1. オームの法則、 2. 直流電流、 3. 半導体 第3章 電流と磁場 1. 磁場、 2. 電流のつくる磁場、 3. 電流が磁場から受ける力、 4. ローレンツ力 【期末考査】
第3学期	1 5 2	第4章 電磁誘導と電磁波 1. 電磁誘導の法則、 2. 交流の発生、 3. 自己誘導と相互誘導、 4. 交流回路 第V編 第1章 電子と光 1. 電子、 2. 光の粒子性、 3. X線、 4. 粒子の波動性 第2章 原子と原子核 1. 原子の構造とエネルギー準位、 2. 原子核、 3. 放射線とその性質、 4. 核反応と核エネルギー、 5. 素粒子 【期末考査】
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	特進文系 コース	3	理科

使用教科書等	出版社
改訂版 化学基礎 315	実教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物質の組成、性質や構造、物質間の反応を学び、人間生活と物質の関わりについて考える。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。[3学期は期末考査のみ実施]	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	序 化学と人間生活 第1章 物質の構成 1節 物質の探求 1 物質の種類と性質 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動
	5 7	2節 物質の構成粒子 1 原子の構造 2 イオンの生成 3 周期表
第2学期	7 10	第2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 1 イオン結合 2 イオン結晶 2節 共有結合と分子間力 1 共有結合と分子間力 2 共有結合からなる物質 3節 金属結合 1 金属結合 2 金属
	10 12	4節 化学結合と物質 1 物質の分類 2 金属結合からなる物質とその利用 3 イオン結合からなる物質とその利用 4 共有結合からなる物質とその利用 第3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式 1 原子量と分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式
第3学期	1 2 3	2節 酸と塩基 1 酸と塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定 3節 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 酸化還元反応の起こりやすさ 4 身のまわりの酸化還元反応

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物	2	特文 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 生物基礎 / 改訂 高等学校 生物	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各期の考査によって、それぞれの学習範囲の理解度・知識力・考察力を評価を行う。	日頃の授業への取り組みや授業態度、課題等の提出物によって評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第4章 バイオームの多様性と分布 2 バイオームの形成過程 3 バイオームとその分布
	5	第5章 生態系とその保全 1 生態系 【中間考査】
	5	2 生態系のバランスと保全 3 生態系の保全
	5	第1章 細胞と分子 1 生体物質と細胞
	6	【期末考査】
	第2学期	7
5		第2章 代謝 1 代謝とエネルギー代謝 2 同化
9		【中間考査】
10		3 窒素同化 4 異化
5		5 呼吸
12		【期末考査】
第3学期	1	第3章 遺伝情報の発現 1 遺伝情報とその発現 2 遺伝子の発現調節
	5	
	2	【期末考査】 3 バイオテクノロジー
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	2男	普通 コース	3	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2018 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は期末考査を実施する。	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト② ・ 集団行動
	6	◇サッカー 2対2・3対3・ゲーム ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト① ◇陸上競技 走り幅跳び、砲丸投げ ●実技試験
	10	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
第3学期	1 2	◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) サーブ・スパイク・ゲーム ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	2学年(女)	普通 コース	3	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active Sports 2018 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身につける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身につける。 3学期は期末考査を実施。	計画的に、自ら進んで行うことで運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち、意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇ハンドボール パス・シュート(ステップ・ジャンプ) 対人練習(2対2・3対3) ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)・サーブ・スパイク・ゲーム ●実技試験
	11	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
第3学期	12	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
	2	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	2学年(男)	進学・特進 コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active Sports 2018 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を調整体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身につける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身につける。 3学期は期末考査を実施。	計画的に、自ら進んで行うことで運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち、意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇サッカー 2対2・3対3・ゲーム ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
	11	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
第3学期	12	◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) サーブ・スパイク ゲーム ●実技試験
	2	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	2学年(女)	進学・特進 コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active Sports 2018 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身につける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身につける。 3学期は期末考査を実施。	計画的に、自ら進んで行うことで運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち、意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) サーブ・スパイク・ゲーム ●実技試験
	11	◇ハンドボール パス・シュート・対人練習 ゲーム ●実技試験
第3学期	12	◇バスケットボール パス・シュート・対人練習 ゲーム ●実技試験
	2	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
音楽Ⅱ	2	普通 コース	2	芸術

使用教科書等	出版社
改訂版 高校生の音楽2	音楽之友社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、いろいろな音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受性や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・音楽上の幅広いジャンルに対して興味関心を高めているか。 ・主体的に楽曲演奏に取り組んでいるか。 ・演奏活動への参加の仕方や態度	・楽曲、ジャンルの特質を知覚し、音楽のよさ、美しさを個性豊かに表現の工夫をしているか。 ・実技テストの内容・演	・楽曲から感じ取ったイメージを個性豊かに表現できているか。 ・実技テストの内容 ・演奏発表の内容	・多様な音楽や音楽文化に対する理解を深め鑑賞できているか。 ・レポートの内容 ・演奏発表の内容
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	歌唱・・・自然を歌う、ポピュラーソング。器楽・・・リコーダーソロ、2重奏 鑑賞・・・ウェストサイドストーリーについて 楽典・・・①
	7 8 9 10 11	歌唱・・・愛を歌う、世界の民謡 器楽・・・リコーダーソロ、アンサンブル 鑑賞・・・世界の音楽 楽典・・・②
第3学期	1 2 3	歌唱・・・合唱 器楽・・・リコーダーアンサンブル 鑑賞・・・日本、世界の音楽

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
美術2	2	普通 コース	2	芸術

使用教科書等	出版社
高校美術2(116-日文・美Ⅱ-302)	日本文教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	美術の創造的な諸活動を通じて、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を楽しむ愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・美術のあらゆるジャンルに対して興味・関心を高めているか。 ・主体的・意欲的に制作活動に取り組んでいるか。 ・自己評価シート参照	・制作しようとしているジャンルの特質を理解し、美術のよさ・美しさを、個性豊かに表現の工夫をしているか。 ・提出した作品で評価	・制作しようとしているジャンルの特質を理解し、個性豊かに表現する技能をもって制作に取り組んでいるか。 ・提出した作品で評価	・様々な美術作品や美術文化に対する理解を深めて鑑賞できているか。 ・レポートの内容
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	・ミーティング 【絵画】……クロッキー 【工芸・デザイン】…素材研究
	5	
	5	【絵画】……クロッキー 【デザイン】…ポストカード 【鑑賞】
	6	
	7	
第2学期	7	【絵画】……クロッキー 【デザイン】…雑誌の表紙制作 【鑑賞】
	8	
	10	
	11	【絵画】……クロッキー 【日本画】…水墨画の世界 【工芸】……モダンテクニック
	12	
第3学期	1	【絵画】……クロッキー 【デザイン・イラスト】…絵本制作 【鑑賞】
	2	
	5	
	1	【絵画】…クロッキー
	2	
3		

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
書道Ⅱ	2	普通 コース	2	芸術科

使用教科書等	出版社
書道Ⅱ	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化に親しみ、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性をたかめ、豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・書道文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に取り組んでいるか。 ・関心意欲は作品の添削と提出状況、態度は出席状況、マナーで評価	・芸術書道の良さ、美しさを個性豊かに表現の工夫をしているか。 ・感受性や表現は提出した作品で評価	・創造的な表現をするための技能を身につけているか。 ・古典作品に対して特徴をとらえた技能で表現できていたか。作品によって評価	・書道を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。 ・作者の作品を理解しているか。授業中の発言等によって評価
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	漢字の書(楷書)臨書 1. 張猛龍碑
	5	2. 薦季直表 3. 始平公造像記 4. 賢愚経
	6	漢字の書(行書) 1. 集王聖教序(王羲之)
第2学期	7	漢字の書(行書) 1. 李柏尺牘稿 2. 蜀素帖
	8	3. 文化祭作品創作(協同制作)
	9	漢字の書(草書)
	10	書譜・十七帖・自叙帖
第3学期	11	硬筆の学習 漢字の書(隸書・篆書) 篆刻の学習
	12	生活の中の書(実用書) 創作の学習
	1	1. 書初め作品
	2	仮名の書(散らし書き)
	3	漢字仮名交じりの書 1. 創作(色紙)

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	2	普通 コース	2	英語

使用教科書等	出版社
VISTA English Communication II New Edition	三省堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。試験問題は、授業で学習した内容を中心に出題する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ~ 5	Lesson 1 Birthdays , Here and there
	5 ~ 7	Lesson 2 The Emerald Isle
第2学期	7 ~ 10	Lesson 3 The Sagrade Familia
	10 ~ 12	Lesson 4 Nobel Prize Episodes
第3学期	1 2 ~ 3	Lesson 5 Flowers in the Tomb

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現Ⅱ	2	普通 コース	2	英語

使用教科書等	出版社
Vivid English Expression II New Edition	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ~ 5	Lesson 1 Enjoying My School Life
	5 ~ 7	Lesson 2 I've Lived Here All My Life Lesson 3 I Want to Hear Your Performance
	7 ~ 10	Lesson 4 I Like Shopping Lesson 5 I want to Study Robotics Lesson 6 Great People I Respect
第2学期	10 ~ 12	Lesson 7 Studying is Fun Lesson 8 What Language Do They Speak There? Lesson 9 Do You Like Your Job?
	1 ~ 2	Lesson 10 Memories of My Best Trip
	2 ~ 3	Lesson 11 Reading English Newspapers Lesson 12 What Has Made You So Excited? Lesson 13 Run, Melos!

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	2	進学 コース	4	英語

使用教科書等	出版社
Grove English Communication II New Edition	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①英語の文章を理解する能力を養う。 ②それに必要な基本的文法及び構文を学習する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五月	Lesson 1 Mt. Fuji: The Pride of Japan
	五・六月	Lesson 2 Yes, I do Climb Ahima Shiraishi Lesson 3 A Penguin Called Happy Feet
第2学期	七・十月	Lesson 4 Warka Water Lesson 5 A Hidden History of Tomatoes
	十・十一月	Lesson 6 Iceland Lesson 7 Which Jam Would You Like?
第3学期	十二・一月	Lesson 8 Paper Buildings
	二・三月	Lesson 9 Lunch Delivery in Mumbai

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現Ⅱ	2	進文/進理 コース	3	英語科

使用教科書等	出版社
Vision Quest English Expression II Ace	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	原則として、各学期に中間・期末考査を実施し、総合的な英語力を確認し評価する。	授業中の小テスト、プリント・ノート・課題等の提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	Part1 Lesson 1 Lesson 2 中間考査
	5 6	Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6 期末考査
第2学期	7 10	Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10 中間考査
	10 12	Lesson11 Lesson12 Lesson13 期末考査
第3学期	1 5	Lesson 14 期末考査
	3	Lesson15

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	2	特進 コース	4	英語

使用教科書等	出版社
Grove English Communication Ⅱ	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②英文を読んで、その情報や筆者の考えを的確に理解する。 ③日常の話題について、自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出題する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストの結果、プレゼンテーション(発表)により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		Lesson1 Mt. Fuji: The Pride of Japan Lesson2 Yes, I Do Climb
		Lesson3 A Penguin Called Happy Feet Lesson4 Warka Water
第2学期		Lesson5 A Hidden History of Tomatoes Lesson6 Iceland
		Lesson7 Which Jam Would You Like? Lesson8 Paper Buildings
第3学期		Lesson9 Lunch Delivery
		Lesson10 Saving Wildlife from Global Warming

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現 II	2	特文、特理 コース	3	英語科

使用教科書等	出版社
DUALSCOPE English Expression II	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	原則として、各学期に中間・期末考査を実施し、総合的な英語力を確認し評価する。	授業中の小テスト、プリント・ノート・課題等の提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		<Staget 1> Unit 1 Unit 2
		Unit 3 Unit 4 Unit 5 Unit 6
第2学期		Unit 7 Unit 8 Unit 9 Unit 10 Unit 11 Unit 12 Unit 13
		<Staget 2> Unit 14 Unit 15
第3学期		Unit 16 Unit 17 Unit 18

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
情報演習	2	普通 コース	2	情報・職業科

使用教科書等	出版社
全商情報処理検定テキスト2・3級[ビジネス情報部門] 等	実教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	パソコンを利用して、文書作成や情報処理の知識と技能の修得を目指す。 ビジネス文書検定3級・情報処理検定3級相当のスキルを身につけ、合格する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
趣旨・基準	真摯な態度で、ビジネス文書検定3級・情報処理検定3級に合格することを目指す。 授業態度、出席状況で評価をする。	ワードを利用しての文書作成や、エクセルを利用したの表計算・グラフ作成等が最適となるように作成できることを目指す。 授業実績をもとに評価。	検定試験で求められているデータ入力速度を身につけることを目指す。 授業での実績、検定試験での実績をもとに評価をする。	情報処理や文書処理に関する知識を身につけ、筆記問題に対して正しく回答できることを目指す。 検定筆記試験などで評価をする。
評価割合	約20%	約20%	約30%	約30%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	ビジネス文書実務検定 模擬試験問題集3・4級 速度問題 3級編 文書問題 4級編、3級編 筆記問題 学習のポイント 全商第62回ビジネス文書検定 6月30日
	7	全商情報処理検定テキスト2・3級[ビジネス情報部門] Lesson 1 Excelとは ～ Lesson 7 Excelのグラフ
第2学期	8 9	全商情報処理検定テキスト2・3級[ビジネス情報部門] Lesson 8 Excelのおもな関数 ～ 3級検定用トレーニング
	10 11 12	ビジネス文書実務検定 模擬試験問題集 速度問題 3級編、2級編 文書問題 3級編、2級編 筆記問題 学習のポイント 全商第63回ビジネス文書検定 受験 11月24日
第3学期	1	全商情報処理検定テキスト2・3級[ビジネス情報部門] 3級検定用トレーニング 情報処理検定 模擬試験問題集 模擬試験問題 全商第63回情報処理検定 受験 1月19日
	2 3	ビジネス文書実務検定 模擬試験問題集 速度問題 3級編、2級編 文書問題 3級編、2級編 筆記問題 学習のポイント